

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人しまね文化振興財団	
施 設 名	島根県芸術文化センター 島根県立いわみ芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	13,253	(千円)
	公 演 事 業	7,262 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,714 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,277 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	しまね伝統芸能祭	2020年9月12日、13日	○創作舞台「石見神楽×ダンス『SHOKI-鍾馗-』」振付・演出：藤田善宏／出演：CAT-A-TAC 益田市石見神楽神和会青年部 ○交流公演 出演：大元神楽、石見神楽・丸茂神楽社中、阿波木偶箱まわし保存会 ○ろう学校小学部児童への継続型和太鼓体験授業 講師：今福座	目標値	850
		小ホール、大ホール オンライン上		実績値	232※ 配信計 約 7,300 回
2	アジア友好の海芸術交流プロジェクト グラントワカンタート2021	2021年1月9日、10日※ 2月27日※延期分	総合プロデュース：栗山文昭 ○オンラインセミナー※ 講師：信長貴富、青山恵子、勝部俊行、菅野正美、寺嶋陸也、藤井宏樹、栗山文昭、坂元勇仁 ○フレンドシップコーラスコンサート※ 出演：全国の合唱団27団体 海外ゲスト：飛夢合唱団（中国）、ソウル・モテト・ユース・クワイア（韓国）	目標値	1,400
		大ホール、オンライン上 他		実績値	8,024 (配信計 10,829 回)※
3	今福優グラントワ開館15周年記念和太鼓公演～笑祭～	2021年3月21日	出演：今福座 （今福優・末長愛・堂本英里） 特別ゲスト：藤本吉利、藤本容子、和知太鼓保存会、小崎文雄	目標値	800
		大ホール		実績値	691
4	MUSEUM×THEATER ミュージア	2020年10月31日 ※5月および8月は中止	○舞踏公演「HOKUSAI × BUTOH 大駱駝艦『北斎とをどる』」 演出・振付・出演：村松卓矢（大駱駝艦） 出演（大駱駝艦）：松田篤史、高桑晶子、荒井啓汰、谷口美咲子	目標値	240
		中庭広場		実績値	92※ 配信計 約 1,500 回
5	2020国際子どもと舞台芸術・未来フェスティバル in グラントワ	2020年5月3日（中止） ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	200
		スタジオ1、中庭広場		実績値	—※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	いわみ舞台塾	2021年1月16日、2月20日、3月7日、3月13日 ほか※	○各講師 邦楽：川村泰山、川村葵山、熊谷雅楽映 弦楽：加藤幹雄、東京アーティスト合奏団 合唱：山崎勝、広兼伸俊、永田聖子 ほか 演劇：太宰久夫・大塚恵美子、坂井陽介、真咲郁 ほか	目標値	1,200
		大ホール、多目的ギャラリーほか		実績値	1,883※
2	鑑賞者育成講座 グラントワアートサロン	2020年10月31日 2021年3月12日※	○舞踏体験ワークショップ 講師：大駱駝艦 村松卓矢ほか2名 ○きっとオペラが好きになる入門講座 講師：高島勲／出演：金山京介、徳山奈奈、経種美和子	目標値	80
		大ホール※		実績値	73
3	益田糸操り人形 後継者総合養成事業	2021年2月12日、19日他全10日間※	指導講師：飯室康一（人形操作）、竹本越孝（義太夫）、鶴澤駒治（三味線） コーディネーター：公益財団法人現代人形劇センター	目標値	150
		多目的ギャラリー他		実績値	122※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	グラントワ芸術家の派遣事業 (アウトリーチ)	2020年8月3日、 2021年1月9日他※	出演：デュオ・アフエッティ、アンサンブルユニット「トライアングル」、打楽器アンサンブルユニット APLICOT	目標値	250
		益田市立老人ホーム「春日荘」他 ※		実績値	110※
2	グラントワ通り×きんさいデー 「きんさいパレード&ライブ」	2020年10月4日※ (10月1~3日は中止)	出演：BLACK BOTTOM BRASS BAND	目標値	600 (パレード・事前クリニック参加者含む)
		大ホール		実績値	194※
3	益田系操り人形公演	2020年11月1日、 12月4日、 2021年3月20日※ (2020年7月は中止)	出演：益田系操り人形保持者会 演目：寿三番叟、伊達娘恋の緋廉子八百屋お七の段、三十三間堂棟木之由来 平太郎住家の段、三十三所花の山 壺阪寺 沢市内の段、沢市山の段、沢市谷間の段、山本一流獅子の一曲	目標値	500 (グラントワ公演 100×3回 / 出前公演合計 200)
		小ホール		実績値	235※
4	いつでもどこでも音楽祭	2020年8月9日他※ (1月2公演は中止)	出演：Enjoy Music Association (フルート、ピアノ、ヴァイオリン)、桂歌若 (落語)、嘉戸絵理香 (ピアノ)、朝枝恵利子 (ソプラノ)、中島詩織 (ピアノ)	目標値	480
		小ホール 他		実績値	250※
5	島根邦楽集団 第15回定期演奏会	2021年3月7日 (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	800
		大ホール		実績値	—※
6	グラントワ弦楽合奏団 第10回定期演奏会	2020年8月29日、 10月10日、 2021年3月14日	出演：グラントワ弦楽合奏団、東京アーティスト合奏団 指揮：加藤幹雄 指導講師：東京アーティスト合奏団	目標値	400 (定期演奏会・ミニコンサート入場者数)
		大ホール、小ホール※		実績値	318※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

事業の組み立て

令和2年度は、開館15周年の記念すべき年であり、「鑑賞機会の提供」、「鑑賞者・実演者・愛好家の育成」、「交流の促進」といったミッションを軸に、継続的に行っている事業に加え、東京オリンピック2020に合わせた島根の伝統芸能をテーマにした『しまね伝統芸能祭』や、海外カンパニーが複数出演する子ども向け公演事業、全国から多数の合唱団が参加する大型合唱イベント『グラントワ・カンタート』など、出演者・観客・スタッフ・関係機関等が渾然一体となって祝い、創り上げるコンセプトの事業を複数計画しており、「伝統芸能」や「合唱」などの地域資源を有効に活用しながら、時代性・国際性を盛り込み、「人が集い出会う装置としての劇場」の役割を地域住民に再認識してもらうことを念頭に事業の組み立てを行った。

○令和2年度独自の参加型要素の強い事業…公演事業1、2、3、5／普及啓発事業2

※人材養成事業および継続的に実施する事業を除く

執行状況・事業実績

上記計画に対し、令和2年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、年度を通して施設運営全体において大きな影響を受ける未曾有の事態となった。助成事業においても中止や延期が多数発生し、開催できた事業についても、収容率の問題や地域住民の感染への警戒感により、開催規模や集客面で大きな影響があった。全体の執行状況（決算）は要望時の65%にとどまり、入場者・参加者数の実績は更に縮小し、50%程度となった（オンライン除く）。1回あたりの目標値が大きい公演事業の入場者減少や、普及啓発事業におけるアウトリーチ未実施などの影響が大きい。反面、映像の活用やオンライン配信等の新たな取り組みが追加となり、全国や海外からの視聴・反響があり、新たな実績を生み出している。（配信の再生回数実績は（3）創造性にて記述）

公演・人材養成・普及啓発／合計事業開催数(公演・講座数)	要望時計画	開催実績	要望比
公演型事業数(アウトリーチ公演含む)	41	18	43.9%
講座型事業数(ワークショップ含む/一部日数または回数でカウント)	56	48	85.7%

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

劇場制作機能の発揮による事業継続性の確保

全国的に大規模公演が中止・延期となる中、劇場が自ら企画制作する助成事業においては、一部中止や縮小はあったものの、アーティストや関係者の協力により多くが開催することができた。特に『しまね伝統芸能祭』(9月)と『グラントワ・カンタート』(1月)は、県内の伝統的な行事や祭事のほとんどが中止、また、飛沫感染への懸念から合唱活動が苦境に立たされる状況の中、両事業ともオンライン配信要素を組み入れながら感染症対策を徹底したうえで観客を入れて公演開催し、全国の伝統芸能関係者や合唱・音楽関係者を勇気づけ、文化的・社会的に大きなインパクトを与えたと考える。また、配信については海外からの視聴もあり、地域資源と配信等を組み合わせた地方発のコンテンツは、施設や地域の発信だけでなく、観光産業などへの経済的意義が今後期待できる場所である。こうした事象は、これまでの助成に支えられた幅広い事業実績と劇場制作機能の蓄積によるところが大きく、改めて地方の劇場・ホールにおける制作機能の重要性と公的支援（助成等）の必要性を感じる。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業 = おおむね達成できた

○リアルの入場者数については、収容人数制限などの影響もあり、要望時目標の3割程度に留まった。

○指標②「満足度を高める」: アンケートにていずれも高い満足度を記録。目標値を達成しただけでなく、感染症対策や公演実現に対する温かい感謝の言葉が多く寄せられ、数値以上に文化芸術の価値を観客と共有できた。

○指標③代表事例【活動の持続性への貢献】(公演1) 事業単体として最初に感染症対策ガイドラインを策定し、開催実現に向けた推進力となった。また、対面稽古が必要な創作舞台にて、全国的にも先駆けとなる全出演者・主要スタッフ計50名の大規模PCR検査実施。神社等での祭事開催が困難な中、劇場事業として発表機会を設けることで感染症対策のロールモデルともなり、県西部の伝統芸能活動再開の一助となった。

(公演2) 活動が制限される全国の合唱団に呼びかけ、動画とリアルで出演する県内外の合唱団を合わせ27団体が参加。また、海外から参加歴のある中国・韓国の合唱団も撮りおろし映像でゲスト出演を果たした。

【地域の魅力発信】オンラインを活用し、複数の公演でライブ配信およびアーカイブ配信を実施。「伝統芸能」や「合唱」の重点ジャンルや、美術館共同企画事業など、当センターならではの地域性・独自性の高い内容とした。

(配信の再生回数実績は(4)創造性にて記述)

人材養成事業 = おおむね達成したが不十分

○感染症の影響により活動休止状態となった4つのフランチャイズ芸術団体に対し、全国的な感染症対策の情報提供や活動再開時の運営支援等を行い、再開した活動が軌道にのるよう最大限の支援を行った。

○ワークショップなどの対面を前提としている事業がほとんどだったため、年間を通じて対応に追われた。合唱分野の中高校生対象の事業は、関係する教育関係者と協議し、リモートも含め開催を見合わせる結果となった。

○(人材1)および(人材3)の複数の講座においてリモート指導を導入したことで、実施回数は要望時の計画に対して83%程度の減少に留めることができたが、参加人数や回数に制約を設けざるを得ない講座もあった。

○ジャンルのリモート指導が難しい講座や、当劇場・講師ともに手探りとなった講座もあり、講座型事業のリモートの可能性と課題が浮き彫りになった。今後、専門知識の獲得やハード整備などの対応が求められる。

○島根県障がい者文化芸術活動支援センターとの共催事業を実施し、次年度以降に繋がる関係者ネットワーク作りをスタートし、一定の成果を得た。(令和3年度は、文化庁「障害者による文化芸術活動推進事業」へ移行)

普及啓発事業 = 達成は不十分

○感染症の影響により、一時的に県内市町村立文化施設や公民館に厳しい利用制限が設定され、地域の文化団体の練習活動が困難となり、発表機会が多く失われる中、県立施設として感染症対策を徹底した上で、地域の文化団体とともに発表機会の確保に努めた。

○少ない鑑賞機会への期待感から「新規鑑賞者獲得」等の各指標については、おおむね達成することができたものの、一部の事業内容縮小や中止等の影響により、目標に対して実績は要望時の36.5%に留まった。

○アウトリーチ事業は、これまで福祉施設や病院、教育機関を主たる対象としていたため、通年で実施が困難となったが、福祉施設へリモートで演奏会を届ける試みや、感染症拡大で帰国困難となった外国人労働者向けの演奏会など、新たな手法や視点を持った事業の開拓を行うことができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<公演事業>事業期間

事業名	要望書	実績	変更点
1. しまね伝統芸能祭	公演:9/12・13(2日間) 体験:10月以降(4回程度) 特設サイト:4月以降開設	公演:9/12・13(2日間) 体験授業:12~1月(3回) 特設サイト:7月開設	体験授業:学校との調整により3回の実施へ変更 特設サイト:公演、配信映像調整の為7月に変更
2. グラントワ・カンタート 2021	1月8~10日(3日間)	1/9・10日、2/27(3日間)	講師急病のため日程を変更
3. 今福優グラントワ開館 15周年記念和太鼓公演	プレイベント:10月 本公演:3月	本公演:3/21	10月に予定していたプレイベントを3月本公演へ集約
4. MUSEUM×THEATER ミューシア	①4~5月中/②8月/ ③12~1月頃(全3回)	③10/31(全1回)	①②感染症の影響で中止
5. 子どもと舞台芸術・未来フェスティバル	5月3日(全1回)	中止	感染症の影響で中止

<人材養成事業>事業期間

事業名	要望書	実績	変更点
1. いわみ舞台塾	通年(全60回)	通年(全95回)	追加講座により35回増
2. グラントワアートサロン	7月/11月/2月(全3回)	10/31、3/12(全2回)	感染症の影響で1回分減
3. 糸操り人形後継者総合養成	5月~3月(全14回)	2月~3月(全10回)	感染症の影響で4回分減

<普及啓発事業>事業期間

事業名	要望書	実績	変更点
1. 芸術家派遣事業	5月~3月(5回程度)	8/31、1/9、3/28(全3回)	感染症の影響で2回分減
2. きんさいパレード&ライブ	10/1~4(全4日)	10/4(全1日)	感染症の影響で4日のライブのみ開催
3. 益田糸操り人形定期公演	定期:7月/11月/3月(全3回)、出前:通年(7回程度)	11/1、3/20(全2回) 出前公演:12/4(全1回)	感染症の影響で定期公演7月及び出前公演6回を中止
4. いつでもどこでも音楽祭	通年(8回程度)	8月~12月(全4回)	感染症の影響で4回分減
5. 島根邦楽集団定演	3月(全1回)	中止	感染症の影響で中止
6. 弦楽合奏団定演	定演 3/14、ミニコンサート 5・10月、セミナー1回	定演 3/14、ミニコンサート 10/4、セミナー8/29	ミニコンサート:感染症の影響で1回分減

<公演事業>収益率/感染症の影響で入場料収入が計画時より減、もしくは入場無料開催へ変更したため収益率減

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| 1. しまね伝統芸能祭 54.5%→33.9% | 4. MUSEUM×THEATER ミューシア 53.7%→0% |
| 2. グラントワ・カンタート 2021 54.5%→26.5% | 5. 子どもと舞台芸術・未来フェスティバル 54.5%→0% |
| 3. 今福優開館 15周年記念和太鼓公演 54.5%→20% | |

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

(1) 時代性・社会性を持った事業への転換

公演事業の内、中止となった1事業を除いて4つの事業が劇場の自主企画事業であり、出演者や演出家と直接やり取りし準備を進めていたことから、無事に公演が実現した。また、その内3事業は、過去に複数回の制作歴があり、信頼関係を構築したアーティストや地域の団体と、この困難な状況下にこそ必要な舞台作品やメッセージを追求することができた。以下はその代表例。

〇しまね伝統芸能祭 創作舞台「石見神楽×ダンス『SHOKI ー鍾馗ー』」（振付・演出：藤田善宏）

当地を代表する伝統芸能「石見神楽」とコンテンポラリーダンスの3回目となるコラボレーションは、当初計画から演目変更し、疫病鎮護をテーマにした『鍾馗』をベースに、プロダンサー・地元キャスト・スタッフ等総勢50名にのぼる創作舞台として制作。有観客上演とライブ配信を実施した。疫病に苦しむ現代への祈りを込めた舞台は、その高いオリジナリティと完成度から伝統芸能関係者の絶賛を受け、「民俗芸能学会」の研究論文でも取り上げられた。



〇アジア友好の海芸術交流プロジェクト グラントワカンタート2021

前回国内外から延べ2,500名が参加した大型合唱イベントは4回目の開催。新型コロナウイルス感染症により世界中の合唱活動が苦境に立たされる中、開催実現を最優先にするため大きく方向転換し、オンラインに比重を置いたリアルとのハイブリッド開催とした。総合プロデューサーを務める栗山文昭芸術監督のもと、多くの合唱人の呼びかけにより全国から合唱団が動画で参加し、リアルで出演する地元合唱団とともにコンサートを開催。

「Music:Energy to Live=音楽は生きる力」というメッセージとともに全世界に向けて配信し、合唱・音楽関係者に大きな勇気を与え、有料にも関わらず、配信再生回数は10,000回を超えた。多数の楽曲を有料配信するにあたり、著作権に関する専門のアドバイザーを設け、円滑な著作権処理を行った。



〇今福優グラントワ開館15周年記念和太鼓公演

開館当初から長年劇場事業に参画し、国内外で演奏活動を行う益田市在住のプロの和太鼓奏者・今福優氏と共に企画に取り組んだ開館15周年記念事業。和太鼓という楽器の特性上、敢えてオンライン配信は行わず、熟練の和太鼓奏者たちが集い、「生（ライブ）」の良さをストイックに追求。その場に居合わせた観客とともに開館15周年を祝う「祭り」としての舞台を創りあげた。



この他、各事業において新型コロナウイルス感染症対策のため、実施形態の変更や参加対象を絞るなどの工夫、時代に即したオンラインや映像の活用による新たな展開を試みており、地域の文化拠点として歩みを止めることなく、今後につながる貴重な実績を残すことができたと考えている。（オンライン活用・配信の取組については次頁）

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

(2) 地域の実演家・団体との連携

- ・ 県内の実演家や講師を積極的に登用し、感染リスクを抑えるとともに、発表機会や活躍の場を提供。この他、地元神楽社中や、フランチャイズ芸術団体との連携を強め、新型コロナウイルス感染症による圏域文化活動の停滞を防ぐよう務めた。
- ・ 当地の希少な伝統芸能団体「益田糸操り人形」と共同で新型コロナウイルス感染症啓発動画を制作。地域資源のユニークな活用として注目を集め、次回公演の集客に好影響があった。

(3) オンラインを活用した地域の文化芸術発信・リモート指導や講座の試行

助成事業において、以下の映像配信を実施。

事業名／内容	公開形式など	再生回数	備考等
【公演1】しまね伝統芸能祭／創作舞台「石見神楽×ダンス『SHOKI 一鍾槌一』」他	・無料ライブ配信 ・無料アーカイブ	約 7,300 回 (複数の演目計)	演目：創作舞台 1、 伝統芸能上演 3
【公演2】アジア友好の海芸術交流プロジェクト グラントワ・カンタート 2021／オンラインセミナー①～④およびフレンドシップコンサート	・有料ライブ配信 (一定期間のアーカイブ視聴券を含む)	計 10,829 回 (セミナー 3,087 回、 コンサート 7,742 回)	[コンサートの海外視聴国] 中国、韓国、アメリカ、 ルウェー、イギリス 他
【公演4】MUSEUM×THEATER ミューシア HOKUSAI×BUTOH 大駱駝艦“北斎とをどる”	・無料アーカイブ	約 1,500 回 (1 週間限定公開)	上演会場：中庭広場、 出演団体と共同公開
【普及啓発3】益田糸操り人形公演 劇場の感染症対策啓発動画 益田糸操り人形「新型コロナ対策の段」	・無料アーカイブ	約 1,200 回	7 月公演中止後、11 月公演の告知ツールを 兼ねてオリジナル制作

《補足》【1】当地の代表的な伝統芸能と現代ダンスのコラボレーションや、県内の伝統芸能を特設サイトで紹介。

【2】コンサート休憩時間を活用し、島根県・益田市・当センターのPR映像を配信し、ブランディングを図った。

【3】日本を代表する舞踏集団の中庭水盤での上演を後日無料配信。作品とともに特徴的な建築価値もPRした。

【4】希少な伝統芸能「益田糸操り人形」出演のユニークな感染症啓発動画。様々な会場で上映を実施した。

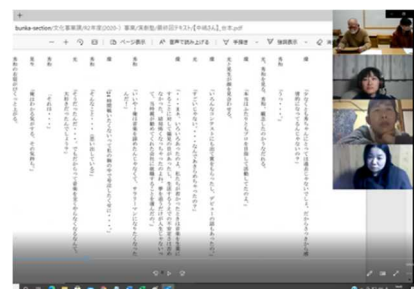
この他、人材養成事業1「いわみ舞台塾」の複数の講座や、同事業3「益田糸操り人形後継者総合養成事業」では、遠隔地の講師と当地をオンラインで繋ぎ、試行的にリモート指導や講座を実施。育成の継続性を高めるとともに、全てリモート開催となる演劇戯曲講座の実施など、オンラインの有効な活用を図った。



[公演4]MUSEUM×THEATER ミューシア
センター中庭水盤上での舞踏公演



[普及啓発3]益田糸操り人形
啓発動画「新型コロナ対策の段」



[人材養成1]いわみ舞台塾（演劇）
戯曲作りの基礎ワークショップ

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当該助成金を活用した事業は、劇場文化事業全体のおよそ50%にあたり、劇場の中心的事業となっている。公演事業1・2のような全県規模の事業もあり、劇場・財団組織活動の発展と圏域文化振興に大きく影響している。

(1) 組織・人材

○組織体制：島根県立いわみ芸術劇場は、「総務広報課」「舞台技術振興課」「文化事業課」の3課を設置し、正規職員、準職員（無期契約）、契約職員（有期契約）の3つの雇用形態で31名が在籍している。文化事業や舞台技術等のノウハウや県内ネットワークの共有、人材育成などを目的に、島根県民会館（松江市）などの当財団が指定管理者として管理運営する施設間において、定期的に人事異動を行っている。

○ボランティア組織：グラントワボランティア会：地域住民によるボランティア組織。公演運営、広報、施設美化など11の部門で構成され、施設運営全般を支えている。令和2年度は60名（延べ88名）が加盟し、定期的な研修も行っている。

○グラントワホール友の会：年会費制会員制度／会員数1,406名（2021年5月時点／美術館との共通会員含む）

○研修・視察等：オンラインを中心に、感染症対策、アートマネジメント、舞台技術、社会包摂など、幅広い分野の研修や外部視察に取り組んだ。（訓練を除く全職員が参加した研修4回、その他研修・視察参加延べ74名）

研修・講座抜粋 新型コロナの感染対策とリスクマネジメント(オンライン)／合唱愛好者、アーティストのための著作権手続き入門講座(オンライン)／「文化芸術×共生社会プロジェクト」人材育成研修会／公共劇場舞台技術者連絡会西地区専門分科会「いまさら聞けない配信の全て」／全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会 2021(オンライン) など

○講師派遣等：東京音楽大学「日本とアジアの伝統音楽・芸能のためのアートマネジメント人材育成」（2021年8月）／石見神楽広域連絡協議会総会「劇場の感染症対策、伝統芸能支援～保存継承と創造～」(2021年12月)

(2) 財務

組織財政状況：新型コロナウイルス感染症の影響により、施設利用料および入場料等は落ち込んだものの、例年以上に補助金を獲得し、借入金もなく流動比率も安定している。（令和2年度正味財産合計：1,018,221,451円）。

【外部資金の活用】(令和2年度 組織全体の主要な補助金、委託事業等抜粋) ※本助成事業を除く

文化庁・日本芸術文化振興基金	その他
・障害者による文化芸術活動推進事業	・地域創造「地域の文化・芸術活動助成事業」
・文化芸術による子供育成総合事業(芸術家の派遣事業)	・ごうぎん島根文化振興財団助成事業
・戦略的芸術文化創造推進事業「JAPAN LIVE YELL project」	・萩・石見空港利用促進事業(島根県) など

(3) 各方面とのネットワーク

劇場と美術館が併設する県立施設である当センターの特性を生かし、設置者である島根県と劇場が位置する益田市の各部署との協力・協働体制を基盤に、近隣の自治体や各施設、団体とネットワークを持っている。

○劇場音楽堂等：「劇場、音楽堂等連絡協議会」や県内30施設で構成する「島根県公立文化施設協議会」に加盟

○PDCAに係る協議会等：「島根県芸術文化センター協議会」（文化芸術・教育・報道機関等の有識者で形成する協議会）／「芸術文化とふれあう協議会」（益田市、吉賀町、津和野町、各市町教委、県、当財団で形成する協議会）